



# あゆみ

八潮市立八潮中学校  
八潮市中央1-1-2  
TEL:048-996-4219  
生徒数 562人

## 対話はキャッチボール

校長 市川 真志

10月に入り、過ごしやすい日が増えてきました。秋本番ですね。食べ物も旬のおいしいものが増えて、ついつい食べ過ぎてしまう時期です。中学生の時期は、少し食べ過ぎるくらいでも良いと思いますが、その分体を動かして、健康な生活を心がけてほしいです。

「体を動かす」と言えば、運動部活動の秋の大会「新人体育大会」が盛んに行われています。本校の部活動も、普段の練習の成果を出して、大健闘しています。スポーツは勝敗がつきますから、応援に行くとしても勝たせてあげたいと思ってしまいます。しかし私は、できるだけ皆さんの表情を見て、真剣に楽しくやっているかどうかを重視したいと思っています。結果はどうあれ、「やって良かった」と思える大会になることを願っています。



さて、最近先生方からの報告や生徒の皆さんからの相談を聞いていると、「対話が不足しているな」と感じる事が多くあります。中学生の時期は、友人関係が複雑になりがちで、ちょっとしたことで誤解や行き違いが起こり、関係が壊れてしまいます。つまり、友達とケンカ別れをしてしまう、ということです。そんな時、皆さんはどうしますか？本音は仲直りをしたいと思っていても、「自分は悪くない」とか「関わらなければそれで良い」と考えて、関係修復から逃げてしまうことが多いのではないのでしょうか。私もそうでした。関係が悪くなっている人と話をするのは、本当に勇気がいることです。できれば話さないで終わりにしたいと考えてしまいます。でも、逃げているうちは、何も解決しないのです。自分の心の中に、ずっと引っかかっている、毎日がつらくなります。そんな時に心がけてほしいことが「対話」です。

「対話」は、辞書によると「向かい合って話すこと」と書かれています。つまり、相手と直接会って話をする事です。「対話」で最も重要なことは、「相手の気持ちを考える」ということです。これは、直接会って話さないと、なかなかできません。SNS やメールでは、顔が見えない場合が多いので、相手の気持ちを考えることは非常に難しいです。直接会って話をする事で、相手の考えを深く理解し、自分の本心をきちんと伝えることができます。よく、「対話」は「キャッチボール」に例えられます。キャッチボールをしたことがある人はわかると思いますが、キャッチボールの場合、投げる方はできるだけ相手が捕りやすいところに投げ、捕る方はほしい場所にグローブを示して狙いやすくします。この相手を思いやる事が「対話」には重要です。それに対して「ドッジボール」は、相手にボールをぶつけて打ち負かすことが目的です。友達関係が悪くなると、つい言葉が「ドッジボール」になってしまいます。そうではなく、「言葉のキャッチボール」である「対話」を心がけてほしいです。心が通じ合えば、必ず仲直りができます。ケンカや争いは、相手を理解することで解決できるのです。今、人間関係で悩んでいる人は、勇気を持って「対話」に挑戦してみてください。

